

Southern Kyushu and Nansei Islands Innovation Center

アクセス

鹿児島中央駅

鹿児島空港リムジンバスで約40分

鹿児島空港



産学交流プラザ

〈多機能実証ラボ「KYOSO 70.Lab」〉



2F セミナー室



1F 多目的スペース・オープンキッチン

鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター

Kagoshima University
Southern Kyushu and Nansei Islands
Innovation Center



鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40 TEL 099-285-8491 FAX 099-285-8495

e-mail: liaison01@gm.kagoshima-u.ac.jp <https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp/>



大学研究の更なる深化と研究成果のグローバルな実装を推進し、南九州・南西諸島域の発展に貢献します。

鹿児島大学では、2022年4月、これまで大学教員の研究支援を担当してきました「URAセンター」と産学界・地域との連携支援を担当してきました「産学・地域共創センター」を統合し、「南九州・南西諸島域イノベーションセンター」を設立しました。

本センターには、本学における研究支援・産学連携の中核的組織としてリサーチアドミニストレーター、産学連携コーディネーター、地域連携コーディネーター、事業化支援コーディネーターおよび知的財産専門家（弁理士）等を配置し、学内研究者の基礎研究支援から、研究シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究の推進、研究成果としての知的財産の保護・管理及びそのライセンスの推進、大学発ベンチャーによるイノベーションの創出までシームレスな支援を行っています。

また、南九州・南西諸島域の基幹産業である農林畜産分野を中心に、関連産業である観光・エネルギー・ライフサイエンス等を含めた潜在的課題「マイクロニーズ*」を地域から発掘して磨き上げ、それらと大学が持つ「研究シーズ」・「教育」、そして地域が持つ「フィールド」を融合させることでイノベーションを創出するとともに、その人材の育成を目指す地域生産エコシステム「知とデータの地産地消」活動を推進しています。

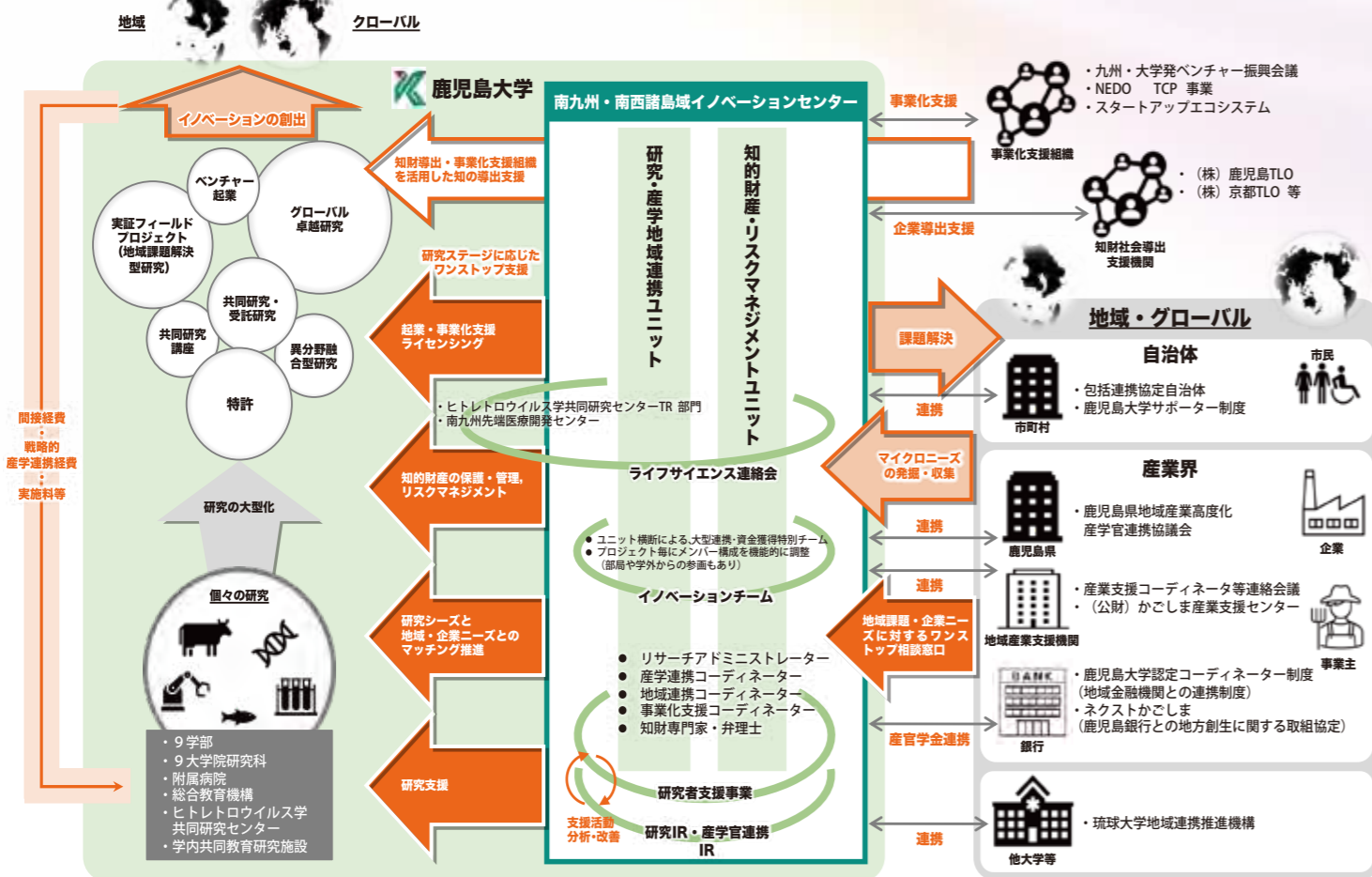
さらに、本センターがある「産学交流プラザ」には、研究成果の可視化による事業化支援を目的とした「多機能実証ラボ」や大学研究成果を活用した大学発認定ベンチャーが入居する「ベンチャービジネスラボラトリー」が設置されています。

加えて（株）鹿児島TLOや（公財）かごしま産業支援センター・産学官連携課といった産学連携支援組織も入居しており、産業界とアカデミアのインキュベーションの場となっています。

*マイクロニーズ：これまで地域の人々にとって当たり前であり、課題として認識されていなかったが、地域外の観察者によって明確に課題として認識され、かつその解決過程においてイノベーションの創出が期待されるもの。



南九州・南西諸島域イノベーションセンターの役割概要 ～研究から社会導出まで一体的で切れ目のない支援体制～



研究支援、産学・地域連携、知財管理・リスクマネジメント、研究成果の事業化等、大学の知に関するあらゆる相談のワンストップ窓口です！ 次のようなお悩みがあれば、まずはご相談ください。

こんなお悩み

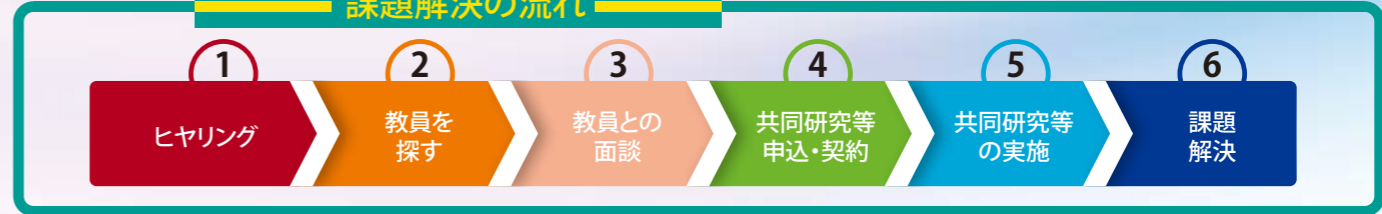
大学研究の詳しい内容を知りたい。	研究に関する相談	企業
大学と共同または委託して研究開発をしたいが、研究者の見当がつかない。	共同研究・受託研究相談	企業・自治体等
大学が所有している特許を活用して事業がしたい。	ライセンス相談	企業
鹿児島大学と連携協定を結びたい。	大学との連携	企業・自治体等
外部研究費申請書の書き方についてアドバイスが欲しい。研究分野に適した外部資金を知りたい。	研究支援	学内
特許を出願したい。発明に関する相談がしたい。利益相反・安全保障輸出管理等の相談がしたい。	知的財産・リスクマネジメント相談	学内
企業との共同研究のため、独立した研究スペースが欲しい。	共同研究スペースを確保したい	学内
研究成果を事業化したい。事業化に向けた研究ロードマップを作成したい。大学発ベンチャーとしての認定が欲しい。将来ベンチャーを起業したい。	事業化相談(学内)	学内・学生
アントレプレナーシップ教育を受けたい。ビジネスプランコンテスト等に参加したい。	ベンチャー起業相談	学内・学生

まずは相談

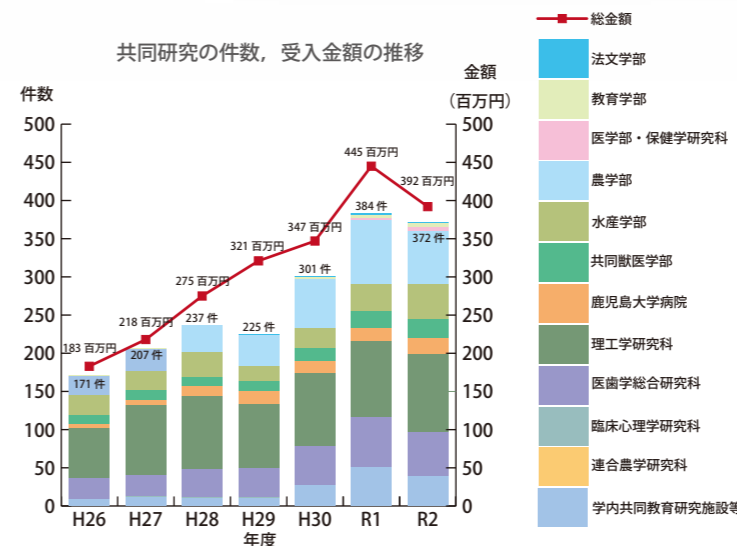
南九州・南西諸島域イノベーションセンター
TEL 099-285-8491
メール: liaison01@gm.kagoshima-u.ac.jp

相談の際は、企業名、所在地、企業担当者名、連絡先（電話、メール）、相談内容をお伝えください。

課題解決の流れ



共同研究の件数・金額の推移



自治体・団体等との連携協定締結

◆自治体……14件

奄美市、鹿児島市、垂水市、出水市、伊仙町、南さつま市、鹿児島県、日置市、志布志市、伊佐市、南九州市、薩摩川内市、徳之島町、天城町

◆民間団体等……22件

(社)鹿児島県工業倶楽部、鹿児島県酒造組合、(株)日本政策投資銀行、(株)鹿児島銀行、(社)鹿児島青年会議所、(財)横浜企業経営支援財団、九州森林管理局、平川動物公園及びかごしま水族館、大崎ものづくり会館、野村證券(株)、(独)水産総合研究センター、(特)NPO造士館講座、奄美諸島広域事務組合、与論町漁協、鹿児島商工会議所、(株)三井住友銀行、琉球大学地域連携推進機構、JAグループ鹿児島、日本航空(株)および日本エアコミューター(株)、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構)

研究・産学地域連携ユニットは、本学研究者が国際的に高い水準で研究ができるように各種研究支援を実施するほか、研究成果等の情報発信、地域産業界等からの技術相談対応、地域課題と本学の研究シーズとのマッチングによる研究成果の社会還元を推進するとともに、社会実装に向けた外部資金等の獲得支援、自治体及び金融機関との連携プロジェクトの企画・立案を行っています。また、事業化が見込まれるシーズに係る研究活動及び大学発ベンチャー事業や、県内の中小企業との研究開発機会の拡大と研究成果の可視化(試作・プロトタイプング)による事業化支援を行っています

01 研究を国際的に高い水準へ

研究者支援

- 外部資金公募情報収集と申請支援(科研費申請アドバイザー制度)
- 分野横断型研究プロジェクトの創出支援
- 文科省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」事業
- スキルアップ支援(英語論文書き方セミナー等)
- 国際シンポジウム開催支援
- 研究・社会貢献IR(Institutional Research)

03 地域ニーズと研究シーズとを「繋げる」/プロジェクトを「育てる」

マッチング

- 共同研究や受託研究のコーディネート
- 各種産学官連携事業の戦略的な企画・提案
- JST・各省庁・自治体・支援機関等の社会実装系研究助成制度への申請支援
- 各種研究会支援・プロジェクト構築支援
- 少人数産学マッチングイベント「かごしまTechミーティング」の実施



02 地域ニーズを「発掘する」「集める」「解決する」

相談対応

- 南九州・南西諸島の地域課題や政策情報の一元的収集
- 産業界や自治体からの相談に対して研究・教育・社会貢献活動といった大学の「知」との仲介
- 「認定コーディネーター制度」や「鹿児島大学サポーター制度」を運用し、地域に眠る潜在的課題「マイクロニーズ」を探索・発掘・収集(トピックス①)

04 研究シーズを「発掘する」「育てる」「発信する」

シーズ展開事業

- 大学研究シーズの収集と「研究シーズ集」の公開・発行
- 展示会、メールマガジン等による研究シーズ情報の全国への発信
- 観光振興につながる研究シーズのデータベース化「さつつん観光ナビ」(トピックス②)



05 地域の「研究・開発力強化」

中小企業の技術開発を後押しする「オープン実証ラボ」

- 地域と共に得た研究成果の可視化と試作機会の確保:「オープン実証ラボ・実証フィールド」の設置
- 課題解決型研究「実証ラボ・実証フィールドプロジェクト」の実施(トピックス③)

06 地域の産学官交流の基盤を「創る」

産学官交流事業

- 一般向けセミナー・シンポジウム「食と健康に関するシンポジウム」(社)鹿児島県工業倶楽部共催)などの開催
- 産業支援コーディネーター等連絡会議の開催:県内各機関(教育機関・自治体・公益財団法人等)の産学官連携に関わる担当者の産業支援に関わる情報交換の場
- 認定コーディネーター制度の運用:本学が認定した連携金融機関による企業ニーズの橋渡しや研究シーズの発信
- 鹿児島大学サポーター制度の運用:本学が認定した地域おこし協力隊等による地域課題の発掘・収集

07 研究成果を社会に「実装する」

大学発ベンチャー認定及び支援制度

- ビジネスプラン構築の支援等を通じた本学の研究成果の社会実装支援
- 鹿児島大学の教員・学生による起業支援
- ベンチャービジネスラボラトリーによる事業化支援
- 大学発ベンチャーの認定(2022年6月末現在、9社)右図のとおり

TOPICS 2 観光振興支援事業 さつつん観光ナビ

本学における歴史、文化、自然、食など、人文社会科学・自然科学に関係する教育・研究シーズを観光の視点で収集し、データベース化。「さつつん観光ナビ」と命名して公開中。

(webページの一部)



TOPICS 1 マイクロニーズの探索・収集とマッチング

本センターでは、イノベーションが期待される潜在的課題を「マイクロニーズ」と定義し、それを地域から探索・収集しています。また、それらを研究シーズとマッチングさせて磨き上げ、地域に実証フィールドを設置してその研究過程を見える化し、その研究成果を地域やグローバルに実装する活動を展開しています。



マイクロニーズの展開例

徳之島では、2018年、「フィールドサーバーと人工衛星画像データを用いたサトウキビ生産管理の効率化」に関する実証プロジェクトを開始。これを起点にさまざまなマイクロニーズを拾い上げ「サトウキビ生産管理」、「圃場地形情報収集」、「適時適切な灌漑システム」、「熱帯作物」、「未利用肉」、「放牧牛」等のプロジェクトに発展させた。

TOPICS 3 地域課題を研究テーマ化 ~実証ラボ・実証フィールドプロジェクト

地域の中小企業との研究開発機会の拡大と大学研究成果の地域での活用を支援するため、地域一体で研究成果を可視化(試作・プロトタイプング)する場として、学内・地域に「オープン実証ラボ・実証フィールド」を9箇所設置。各種「実証プロジェクト」を実施中。



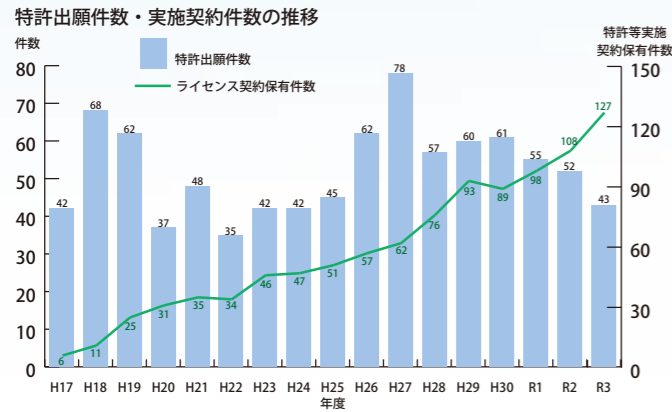
知的財産・リスクマネジメントユニットは、教育研究活動の中で生まれた知的財産を一元的に取り扱い、維持・管理を行うとともに、本学の研究成果を広く社会に還元するための戦略的な知的財産活動を推進しています。また、産学官連携に伴い生じるリスクのマネジメントに努めています。

01 知的財産戦略の推進

- 知的財産の一元的管理
- 知的財産戦略の立案と知的財産活用の推進
- 研究戦略と特許戦略の連携推進を目指した地域や企業のニーズと本学シーズのマッチング調査
- 知的財産の活用まで見据えたマッチング活動

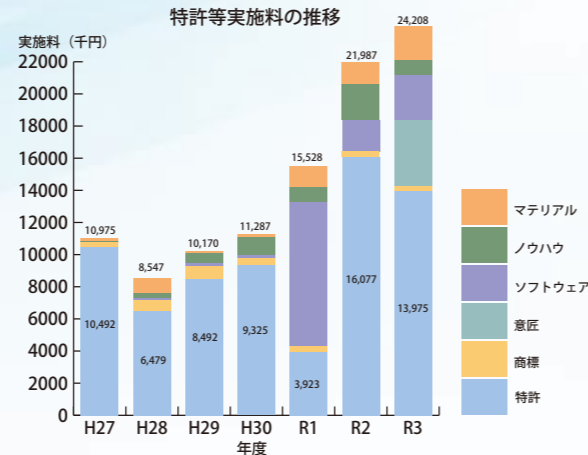
02 知的財産の一元的管理

- 質の高い特許出願の推進を目指した発明相談、発明発掘、先行技術調査、発明の評価の実施
- 企業や他大学等との共同研究の結果創出された発明等について特許の出願から権利化・維持までを一元的管理
- 特許のみならず、意匠、商標、実用新案、ノウハウ管理等との知財ミックスの推進
- 知的財産の維持管理



03 知的財産の活用の推進

- 研究・産学地域連携ユニットや外部技術移転機関と連携した本学保有の知的財産の積極的な技術移転
- 科学技術振興機構 (JST) 主催の新技术説明会や各種シーズ発表会での技術発表支援による本学知的財産の周知及び活用推進



04 知的財産関係の広報、啓発と教育

- 知的財産やリスクマネジメントに関する啓発のための知財セミナーの開催
- 知財人材育成のための教育活動 (共通教育、大学院、一部は公開授業)

TOPICS トピックス 4 地域共創による「かごんまの色®」の策定と「かごんまの色®」の登録商標



かごんまの色®は、「鹿児島県らしさ」を色で表現するために開発したカラーセットの総称です。

鹿児島県全域から選定した地域資源の色を調査するとともに、「かごんまの色総選挙」などにより、地域のアイデンティティとなるような色を設定しています。

かごんまの色®は、地域特産品のパッケージデザイン、ホームページ、ファッション、住宅やホテルのインテリアなど様々なものに鹿児島らしさを付加する際に活用されています。

このパンフレットも「かごんまの色®」で製作しています。

詳しくはこちら

<https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp/blog/article/kagonmanoiro2019/>

※かごんまの色®は鹿児島大学の登録商標です。「かごんまの色®」の名称をご利用いただく場合、利用希望者は鹿児島大学と登録商標使用許諾契約を締結する必要があります。



05 知的財産関係契約の業務と支援

- 知的財産のライセンス交渉やライセンス契約の推進及び契約書の作成や締結
- 他機関と共同出願を行う際の共同出願契約
- 秘密保持契約、研究マテリアル移転契約、共同研究契約、受託研究契約等のチェック及び交渉支援

06 知的財産関係法令の遵守に関する業務と支援

産学官連携活動に伴い生じる以下のリスクマネジメント業務

- 知的財産権の侵害予防及び係争対応
- 営業秘密管理の推進
- 産学官連携に係る利益相反マネジメントの推進
- 安全保障輸出管理の支援

TOPICS トピックス 5

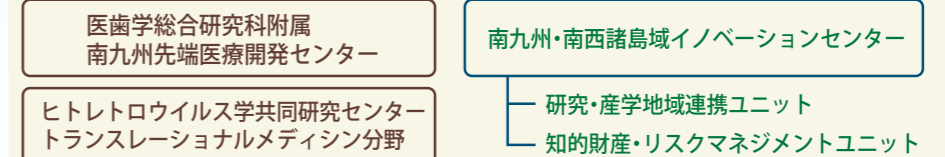
ライフサイエンス分野における支援



本センターでは、医学部、歯学部、医歯学総合研究科、ヒトレトロウイルス学共同研究センター(鹿大キャンパス)、及び大学病院がある桜ヶ丘地区の支援も行っています。ライフサイエンス分野の研究・開発に対する支援については、知的財産権の取得や研究成果の社会実装に向けて専門的な知識や経験が必要となるため、下のように本センターを含む3つのセンターが連携して活動を推進しています。

今年度は、新たな活動の取り組みとして、各種セミナーや相談会開催、研究室キャラバンを企画し、活動推進していきます。

支援体制



S T A F F スタッフ紹介

研究・産学地域連携ユニット

リサーチ アドミニストレーター 特任講師
李 竺楠
科研費支援担当

産学連携コーディネーター 特任専門員
鶴屋 奈央
ライフサイエンス担当

センター長 特任教授
藤枝 繁

ユニットリーダー リサーチ アドミニストレーター 特任教授
岸本 遼

事業化支援 コーディネーター 准教授
中武 貞文
ベンチャー起業支援担当

産学連携コーディネーター 特任専門員
前田 貴博
産学連携担当

学長補佐(社会連携) 副センター長 ユニットリーダー 教授
村上 加奈子
弁理士

副センター長(兼) 農学部教授
北原 兼文

リサーチ アドミニストレーター 特任准教授
米川 聡
IR(Institutional Research)担当

産学連携シニア コーディネーター 特任研究員
平原 彰子
研究シーズ担当

地域連携 コーディネーター 特任専門員
井立田 剛
自治体連携担当

特任教授
中谷 智子
ライフサイエンス担当 弁理士

学長補佐(社会連携) 副センター長 ユニットリーダー 教授
村上 加奈子
弁理士

リサーチ アドミニストレーター 特任准教授
用皆 依里
外部資金獲得、ネットワーク形成支援担当

産学連携 コーディネーター 特任専門員
永重 一博
企業連携担当

地域連携 コーディネーター 特任専門員
瀬戸口 眞治
プロジェクト支援担当